

業務委託仕様書

- 1 委託業務名 岡山県農林水産総合センター畜産研究所 家畜飼養管理・草地管理・堆肥生産管理・試験研究補助等業務
- 2 業務場所 久米郡美咲町北 2272
岡山県農林水産総合センター畜産研究所
- 3 委託期間 令和8年4月1日～令和9年3月31日
- 4 業務内容 岡山県農林水産総合センター畜産研究所における家畜飼養管理・草地管理・堆肥生産管理・試験研究補助等の業務で別紙1のとおりとする。
なお、別紙1で、業務場所が採草地、飼料畑、放牧地、スクープ堆肥舎、糞乾燥施設、堆肥舎及び尿処理施設の業務については、別紙2「草地管理・堆肥生産管理等に係る作業説明書」も参照のこと。

業務の目標は、岡山県酪農・肉用牛生産近代化計画書に定める「Ⅲ 近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標」の生産性指標の数値を参考に、次の数値とする。

酪農業務

経産牛1頭当たり乳量 10,000kg

和牛繁殖業務

出荷体重（去勢）300 kg／頭、（雌）280 kg／頭

和牛肥育業務

出荷体重（去勢）800 kg／頭、1日当たり増体重 0.98kg

草地管理業務

イタリアンライグラス 3,500kg／10a、トウモロコシ 5,500kg／10a

- 5 業務時間 平日及び閉庁日の8時30分から17時15分までの間に実施し、その間は畜産研究所との連絡体制を整えること。ただし、業務時間外においても、夜間分娩など、その必要性に応じて業務を実施する。
閉庁日とは土曜日・日曜日・祝祭日及び年末年始（12月29日から1月3日）とし、それ以外は平日として取り扱う。

6 飼養頭数等と作業用機械等

(1) 飼養頭数等

和牛 約260頭（うち繁殖牛約110頭、育成牛・子牛約90頭、肥育牛約60頭）

乳用牛 約90頭（うち経産牛約50頭）

牧草地等面積 59ha

(2) 主な作業用機械等 別紙3のとおり

7 業務計画書の提出

受託者は、毎月末日までに（4月分については契約締結後速やかに）翌月の業務計画書を農林水産総合センター畜産研究所（以下、「畜産研究所」という。）指定の様式で提出しなければならない。

受託者は、農林水産総合センター長の承認の上、飼養家畜や草地の状況又は気象状況に応じ、あらかじめ提出した業務計画書を変更することができる。

また、緊急の場合は、受託者の判断で変更できるものとするが、速やかに農林水産総合センター長に報告するものとする。

8 業務員の配置

受託者は、委託業務に必要な数の現場責任者及び業務員を業務場所に配置し、委託業務を履行するものとする。

受託者は、現場責任者及び業務員を配置したとき、氏名、年齢、住所、連絡先電話番号、業務に必要な資格の取得状況等を書面で報告すること。

また、これらの配置を変更したときも同様とする。

なお、受託者は、畜産研究所及び他の業務受託業者と連携し、円滑に業務を遂行すること。

9 受託者の要件

- (1) 責任者を含む3名以上の業務員は、畜産業（酪農、肉用牛、草地管理等）を3年以上経験していること。
- (2) 業務員のうち半数以上は、畜産業（酪農、肉用牛、草地管理等）を1年以上経験していること。
- (3) 業務員が搾乳ロボットの操作を経験しており、職場において、その教育ができること。
- (4) 大型特殊自動車運転免許（農耕車限定可）、けん引運転免許（農耕車限定可）、普通自動車運転免許（AT 限定を除く）、労働安全衛生法に基づくフォークリフト技能講習修了証及び車両系建設機械技能講習修了証を有する業務員がそれぞれ3名以上であること。
- (5) 大型特殊自動車運転免許（農耕車限定不可）を有する業務員が1名以上であること。

10 報告書等の提出

- (1) 受託者は、毎月の委託業務が終了したときは、畜産研究所指定の様式による報告書を作成し、指定する職員に提出しなければならない。
- (2) 受託者は、畜産研究所指定の様式による作業日報を整備しておくこと。
- (3) 受託者は、飼養家畜又は施設・設備等の異常を発見した場合は、任意の様式による報告書を作成し、畜産研究所の指定する職員に提出しなければならない。
ただし、緊急を要する場合は、口頭による報告をもって報告書の提出に代えることができる。

11 調査等

農林水産総合センター長は、必要があると認めるときは、受託者に対し委託業務の処理状況について報告若しくは資料の提出を求め、又は必要な指示を与えることができる。

12 作業用機械等の貸与

本業務を実施するために必要な車両、設備・作業用機械等（以下、「作業用機械等」という。）は、岡山県の所有車及びリース車等を別紙3のとおり貸与する。

なお、受託者が所有する作業用機械等を使用する場合は、あらかじめ農林水産総合センター長の承認を得なければならない。

13 作業用機械等の始業点検及び不具合・故障時の調整・修理

本業務を実施するため貸与する作業用機械等の始業時及び終業時の点検は、受託者の責において行うこと。また、使用する作業用機械等に不具合・故障が発生した場合は、速やかに修理等を行うこと。

ただし、受託者の技能では修理等が困難な場合は、ただちに畜産研究所に不具合・故障の状況を詳しく報告するとともに、畜産研究所の手配した専門業者による修理等への協力を行うこと。

14 県有自動車等の取扱い

県有自動車等の取扱いについては、岡山県庁用自動車管理規程により行うこと。

なお、受託者は、貸与を受けた別紙3の自動車について、委託契約締結後遅滞なく、受託者業務員及び県職員の双方が対象となる自動車損害賠償保障法（昭和30年法律第97号）に基づく自動車損害賠償責任保険を補う任意保険（自動車保険）等（保険内容：対人賠償1,000万円、対物賠償200万円、示談代行サービス付き、対物超過費用50万円、被害事故弁護士費用300万円）

に加入し、その旨を農林水産総合センター長へ報告するものとする。

また、受託者は、別紙3の作業車両について、使用する場合は保険等に加入し、その旨を農林水産総合センター長へ報告するものとする。

15 目的外使用の禁止

本業務を実施するため貸与した作業用機械等は、他の目的に使用してはならない。

16 作業時の事故防止について

受託者は、本業務の実施に当たっては、ヘルメットを着用するなど、十分な安全確保を図らなければならない。

また、畜産研究所は発生した事故についての損害賠償は一切行わない。

17 作業資材等の費用負担区分

本業務を実施するための作業資材（おがくずなどの敷料等）や燃料（ガソリン、軽油等）は、畜産研究所が負担する。

ただし、受託者は、業務員に対して業務上必要な被服や軍手等の装備品を着用させるものとする。

18 現場事務所の貸与

本業務を実施するため、受託者が使用する大家畜ゾーン及び草地ゾーンにおける事務所を貸与することとし、事務所の適正な管理や節電・節水等に努めるものとする。

19 教育訓練等

(1) 畜産研究所は、受託者に対して、畜産研究所の実施する消防保安・家畜衛生等の訓練又は職員研修等に受託者の業務員を参加させるよう命じることができる。なお、係る費用は受託者の負担とする。

(2) 受託者は、必要に応じて業務員に対して家畜飼養・衛生管理、労働安全衛生確保等に関する資格取得又は講習受講等の機会を提供しなければならない。

20 来所者への配慮

畜産研究所来所者が受託者の業務員に対して案内等を求めた場合は、受託者は、業務員が多忙でない限り、来所者に対する案内等を実施させるものとする。

また、受託者は、業務員の接遇技術を向上させるよう努めなければならない。

21 試験研究等への協力

受託者は、畜産研究所が試験研究機関であることや畜産情報発信機関であることとともに、農業後継者を育成する必要性を十分理解し、試験研究時における家畜飼養管理等の試験研究の取り決めの遵守や所内まきばの館などにおける畜産情報の発信に係る業務の推進、研修生の受け入れに協力すること。

また、農業大学校旭分校（和牛コース）に係る家畜管理（哺育・育成・繁殖・放牧・肥育・環境等）の学生実習に協力すること。

22 家畜伝染病予防及び対策の協力

受託者は、本業務を実施するに当たり、家畜伝染病予防法第12条の3に基づく飼養衛生管理基準を遵守し、衛生管理区域への病原体の侵入防止、汚染拡大防止及び衛生管理区域外への病原体の拡散防止を徹底し、発生予防及びまん延防止に万全を期すこと。

また、家畜伝染病対策の作業にも協力すること。

23 衛生管理・火気取扱い

受託者は、衛生管理・火気取扱いについては、細心の注意を払うこと。

24 緊急事態への対応

受託者は、畜産研究所で火災、土砂災害、水枯渇等の災害又は家畜伝染病の発生を疑う事例、飼養家畜の脱柵等の緊急事態が発生した場合は、畜産研究所職員と共同して緊急事態に対応すること。

25 その他

契約書、仕様書で定めのない事項については、双方協議の上決定する。

家畜飼養管理

業務場所	区分	業務の詳細	備考
肥育牛舎 後代検定牛舎	試験研究補助業務	試験飼料の給与	平日業務 閉庁日業務
		試験用飼料の製造及び計算	
		採食量調査（残飼料の測定、採食量のデータ入力）	
		試験牛の観察（健康状態及び繁殖状況調査）	
		ふんの採取及び下痢状況調査	
		各種台帳の整理	
	飼養管理業務	飼料給与	
		飼槽の掃除	
		ロールベール、乾草などの飼料及び敷料の運搬	
		除ふん	
		牛体洗浄及びブラッシングによる手入れ	
		尿溝の掃除	
		牛舎の清掃（消毒）	
		各施設・機械の点検整備・修繕	
		ふん尿運搬及びダンプ洗車	
		燃料管理	
繁殖牛舎 肉用牛舎 哺育牛舎 下育成牛舎 放牧場 パドック牛舎	試験研究補助業務	試験飼料の給与	平日業務 閉庁日業務
		試験用飼料の製造及び計算	
		試験用飼料・資材の収集	
		採食量調査（残飼料の測定、採食量のデータ入力）	
		試験牛の観察（健康状態及び繁殖状況調査）	
		ふんの採取及び下痢状況調査	
	各種台帳の整理		
	飼養管理業務	飼料給与	
		飼槽の掃除	
		ロールベール、乾草などの飼料及び敷料の運搬	
		除ふん	
		牛体洗浄及びブラッシングによる手入れ	
		尿溝の掃除	
		牛舎の清掃（消毒）	
		分娩補助（夜間を含む）	
		人工哺乳	
		各施設・機械の点検整備・修繕	
		ふん尿運搬及びダンプ洗車	
		調教及びブラッシング	
		薬品・除草剤の管理	
燃料管理			
放牧場の管理			
放牧・下牧時の牛の運搬			
第一牛舎 ロボット牛舎 哺育牛舎 下育成牛舎 新牛舎 10号草地 パドック牛舎	試験研究補助業務	試験飼料の給与	平日業務 閉庁日業務
		試験用飼料の製造及び計算	
		採食量調査（残飼料の測定、採食量のデータ入力）	
		試験牛の観察（健康状態及び繁殖状況調査）	
		ふんの採取及び下痢状況調査	
		各種台帳の整理	
	搾乳ロボットの各種設定		
	乳量調査及び乳成分測定用採材		
	牛群検定の実施		
	飼養管理業務	飼料給与	
		搾乳	
		飼槽の掃除	
		ロールベール、乾草などの飼料及び敷料の運搬	
		除ふん	
		牛体洗浄及びブラッシングによる手入れ	
		尿溝の掃除	
		牛舎の清掃（消毒）	
		ふん尿運搬及びダンプ洗車	
		分娩補助（夜間を含む）	
		人工哺乳	
搾乳ロボットの管理（夜間を含む）			
各施設・機械の点検整備・修繕			
バルク洗浄			
薬品管理			
燃料管理			
調教及びブラッシング			

業務場所	区分	業務の詳細	備考
採草地 飼料畑 放牧地	試験研究補助業務	試験圃場準備・播種	平日業務 天候の状況により閉庁日業務の場合もある
		試験圃場管理	
		試験圃場調査補助	
		サンプル処理	
		試験資材の管理、準備	
	草地管理業務	(トウモロコシ) 肥料散布	
		(トウモロコシ) 堆肥散布	
		(トウモロコシ) 耕うん	
		(トウモロコシ) 播種	
		(トウモロコシ) 鎮圧	
		(トウモロコシ) 除草剤散布	
		(トウモロコシ) 電柵設置・撤去	
		(トウモロコシ) 電柵下草刈り	
		(トウモロコシ) 収穫・運搬・梱包・ラッピング	
		(トウモロコシ) ロール移動・運搬	
		(トウモロコシ) ロール管理	
		(牧草・スーダン) 肥料散布 (元肥)	
		(牧草・スーダン) 堆肥散布	
		(牧草・スーダン) 耕うん	
		(牧草・スーダン) 播種	
		(牧草・スーダン) 鎮圧	
		(牧草・スーダン) 除草剤散布	
		(牧草・スーダン) 追肥	
		(牧草・スーダン) 掃除刈	
		(牧草・スーダン) 収穫・運搬・梱包・ラッピング	
		(牧草・スーダン) ロール移動・運搬	
		(牧草・スーダン) ロール管理	
各施設・機械の点検整備・修繕			
薬品管理			
燃料管理			
作付計画・作業計画作成			
スクープ堆肥舎 糞乾燥施設 堆肥者 尿処理施設	試験研究補助業務	堆肥発酵温度の測定	平日業務 閉庁日業務
		各種台帳の整理	
		堆肥関係試験の補助	
	堆肥管理業務	原料の搬入 (家畜排せつ物)	
		原料の前処理 (乳牛ふん尿のならし)	
		原料の前処理 (ハウス乾燥施設の稼働)	
		堆肥の1次処理 (ハウス乾燥施設からの移動)	
		堆肥の1次処理 (家畜排せつ物の水分調整)	
		堆肥化処理 (原料投入)	
		堆肥化処理 (施設の稼働)	
		堆積発酵処理 (搬出・堆積移動と乾燥)	
		各施設・機械の点検整備・修繕	
		堆肥の仕上げ処理	
		堆肥の運搬	
		スラリー管理 (スラリーの移動及び散布)	
		燃料管理	
		堆肥舎周辺の環境整備	
共通事項	共通業務	飼料・敷料等の運搬調達や在庫確認	平日業務
		出荷 (競り等) ・導入家畜の運搬 (搬出入) 等補助	
		研修生の受け入れ	
		畜産情報発信 (体験型等) に係る業務補助	
		家畜伝染病予防及び対策に係る業務	
		畜産振興に係る業務	

なお、台風や大雨などの天候不良や災害等により、畜産物・粗飼料の生産性等が著しく低下することが予測され、受託者の人員では業務内容が達成されない場合は、畜産研究所と受託者が協議の上、発注者の指示により、畜産研究所の職員が対応し、一方で、受託者の指示により受託者の職員が対応することとする。

草地管理・堆肥生産管理等に係る作業説明書

【共通事項】

1 目的

本作業説明書は、草地管理・堆肥生産管理等業務委託を適正かつ円滑に実施するため必要な事項について定めるものとし、粗飼料生産等業務編、堆肥生産等業務編の2編から成る。

2 定義

(1) 研究所

業務を委託する岡山県農林水産総合センター畜産研究所を示す。

(2) 受託者

業務を受託する者を示す。

3 受託者の責務

(1) 受託業務を適正に遂行し、最大限の成果が得られるよう努める。

(2) 研究所が業務を遂行するために必要と認めて述べる意見を尊重する。

(3) 受託者は日々の業務について、研究所が指定する様式による報告書を作成し、研究所に報告する。なお、保管期間は5年とする。

(4) 貸付機械等は適正な維持管理を行い、修理が必要な場合はあらかじめ研究所に報告するとともに、修理終了後もその内容を報告する。

4 研究所の責務

(1) 委託業務全般を管理監督する。

(2) 円滑かつ適正な業務が遂行されるよう、必要な措置を講じる。

5 作業説明書、記録・報告様式

(1) 改訂

内容に変更があれば、遅滞なく見直しを行い改訂する。また、現実に即して定期的に見直しを行う。

【粗飼料生産等業務編】

第1章 粗飼料生産及び草地・飼料畑の管理に関する事項

1 管理する草地・飼料畑

位置及び面積は、別紙2-1のとおり。

2 粗飼料生産

(1) 年間作業計画（粗飼料生産等の計画）

別紙2-2,3,4,5,6のとおり。ただし、作業に当たっては、あらかじめ研究所と受託者との綿密な打ち合わせを行うものとする。

(2) 堆肥の利用

粗飼料生産等で使用する堆肥は、研究所で生産されたものを使用すること。

(3) 資材の供給

使用する種子、化成肥料及び除草剤等は、別途研究所が支給する。

(4) 収穫計画報告

受託者は、収穫前には収量調査を行い、予測される生産量及び品質を把握して、研究所に報告する（別記様式3）とともに、飼料成分分析用のサンプルを採取すること。

(5) 生産量報告

収穫終了後は、速やかに草種ごと、収穫ごとの生産量を研究所に報告する（別記様式4）。

第2章 牛尿処理施設の管理に関する事項

1 管理する牛尿処理施設

位置等は、別紙2-1のとおり。

2 牛尿処理施設の管理業務

10～14日間隔で貯水状況等の様子を見ながら次の手順で行うこと。

(1) スラリーストアの貯水状態（量）を確認。

(2) 定置配管用ポンプ（圧送ポンプ）が使用されていないことを確認。

※圧送ポンプ使用時には、曝気槽からスラリーストアに送水できない。

(3) 曝気槽（曝気槽は2槽あり交互に利用する）からポンプで曝気処理水を送水する（要30～60分程度）。

(4) 原尿の投入槽からポンプで曝気槽へ送水する（要30分程度）。

3 草地への散布業務

スラリーストアの貯水状況と草地の状況に応じて、草地に散布するものとし、散布時期・散布量等作業の詳細は、貯水状況を確認しながら、環境に影響の無いように散布すること。

4 スラリーのフロー

和牛、乳用牛からの排水→原水貯留槽→投入槽（91立米）→

曝気槽（120立米×2槽）→スラリーストア（839立米）→配管2016m→草地

第3章 放牧場等の管理整備に関する事項

1 管理する放牧場等

位置及び面積は、別紙2—1のとおり。

なお、管理対象には、放牧利用する草地（区分10, 17）を含む。

2 業務の内容

放牧場等の維持管理に資するため、次の業務を行う（時期は概ね）。

(1) 施肥業務

放牧場への肥料散布（4～6月、3月）。

(2) 管理業務

放牧場内の雑かん木草の刈り取り（1～3月）、播種（10～11月）、牧柵・防護柵の点検・設置（5月）、牧道（アスファルト舗装）沿いの雑草刈り取り（随時）等。

(3) 作業の実施時期、詳細については、その都度研究所から指示する。

第4章 試験研究の補助に関する事項

研究所が粗飼料生産に関する試験研究を行う場合、必要に応じてその指示により補助を行うものとする。

【堆肥生産等業務編】

第1章 堆肥生産施設の管理運営業務

(堆肥生産業務の流れ(フローチャート)、堆肥化施設配置図参照)

1 原料の搬入

堆肥の原料となる牛ふんは、各排出元から搬入される。

(1) 和牛・育成牛のふんの搬入

搬入日：毎日+敷料交換時

搬入場所：堆肥化施設内の堆積場(堆肥化施設配置図①)

搬入方法：運搬車で、容器に詰めていないはだか状態で持ち込む

(2) 乳用牛ふんの搬入

搬入日：毎日

搬入場所：ふん乾燥施設のAレーン北側の入口(②)

搬入方法：運搬車で、容器に詰めていないはだか状態で持ち込む

2 原料の前処理

(1) ふん乾燥施設

良質な堆肥を生産するため、ふん乾燥施設において乳用牛ふんの前処理を行う。

1) 乳用牛ふんの水分調整・投入

搬入された乳用牛ふんは、オガクズ等で水分調整後、ふん乾燥施設の床面に水平となるようにホイールローダーを使用して平らにならす(②)。

2) ふん乾燥施設の稼働

- ・乳用牛ふんを乾燥させるため、ふん乾燥施設を稼働させる。
- ・稼働操作等は、研究所の指導に従うこと。
- ・1日8～10時間稼働させること。
- ・必要に応じて送風機(4台)も稼働させること。
- ・乳用牛ふんは、Aレーンを南に向かって移動し、南側出口(③)から排出される。

(2) 堆積場(①)

和牛・育成牛のふんは、オガクズ等を用いて水分調整を行う。

3 乾燥ふんの移動

(1) ふん乾燥施設から移動(乳用牛ふん)

- ・乾燥ふんをホイールローダーでスクープ式堆肥化施設に運搬する。

4 攪拌発酵処理(一次処理)

(1) スクープ式堆肥化施設への原料投入

- ・堆積場の和牛のふん及びふん乾燥施設から搬出された乳用牛のふんをホイールローダーで投入する。

投入方法：スクープ式堆肥化施設の西南側(北から10本目と12本目の柱の間)(⑤)へ、数カ所に分けてホイールローダーで1日分を投入する。なお、敷料交換等大量に搬出された場合は、数日に分けて投入する。

(2) スクープ式堆肥化施設の稼働

- ・原料の発酵を促進するため、スクープ式堆肥化施設攪拌装置を稼働させる。
- ・稼働操作等は、研究所の指導ほか、添付するメーカーの取扱説明書に従うこと。(株)ナカミチ技研「連続発酵堆肥化処理装置」取扱説明書)
- ・折り返し地点(④)では、堆肥化物を西レーンから東レーンに移送する。
- ・1日1回転又は1.5回転稼働させること。
- ・原料は、1回転の稼働で約2m移動する。
- ・堆肥温度計を適宜差し替え、温度を測定する。

5 堆積発酵処理(二次処理)

(1) スクープ式堆肥化施設からの搬出

- ・発酵した堆肥化物は、投入60日後に施設南側(⑥)から排出される。

1) 堆積発酵施設

- ・スクープ式堆肥化施設から排出された堆肥化物は、ホイールローダーを使用して堆積発酵施設(⑦)において二次処理を行い、ストック施設(⑧)に保管する。

(ア) 堆肥の用途

- ・ストック施設(⑧)に保管された完成堆肥は、研究所の草地等の維持管理を行うために使用する。

6 戻し堆肥の生産

- ・ストック施設(⑧)に保管された完成堆肥をふん乾燥施設のBレーン北側入口(②)において乾燥させる。
- ・南側出口(③)より排出後、堆積場(①)で水分調整材として使用する。又は牛舎の敷料として使用する。

第2章 試験研究等の補助業務

補助業務の詳細は試験時に研究所が指示するが、おおまかな作業内容は次のとおり。

1 補助業務の内容

- ・試験施設への原料ふんの投入
- ・試験堆肥の切り返し
- ・堆肥温度等の測定

2 補助業務の実施時期

- ・年4回程度
- ・試験1回あたり20日程度
- ・所要時間60分/日程度

3 補助業務の実施方法

- ・ホイールローダーによる原料の運搬、搬入
- ・ホイールローダーによる堆肥の切り返し

第3章 堆肥の譲渡業務（旭地区堆肥置き場位置図参照）

1 定期譲渡

(1) 譲渡先

旭地区の4箇所に設置されている堆肥置き場への供給

- ・名称：川北堆肥置き場 所在地：美咲町中
- ・名称：篠平堆肥置き場 所在地：美咲町西
- ・名称：江与味堆肥置き場 所在地：美咲町江与味
- ・名称：八柳堆肥置き場 所在地：美咲町南

(2) 譲渡時期

研究所からの指示による。

(3) 譲渡の荷姿

ダンプ1台分（岡山400せ2883 HIN02t）を基本としたバラ堆肥とする。

2 不定期譲渡

(1) 譲渡先

譲渡を希望する者

(2) 譲渡場所

研究所の指示による、堆肥生産施設内現地での譲渡

(3) 譲渡時期

譲渡希望があった際に随時

(4) 譲渡の荷姿

バラ堆肥

(5) 譲渡の手順

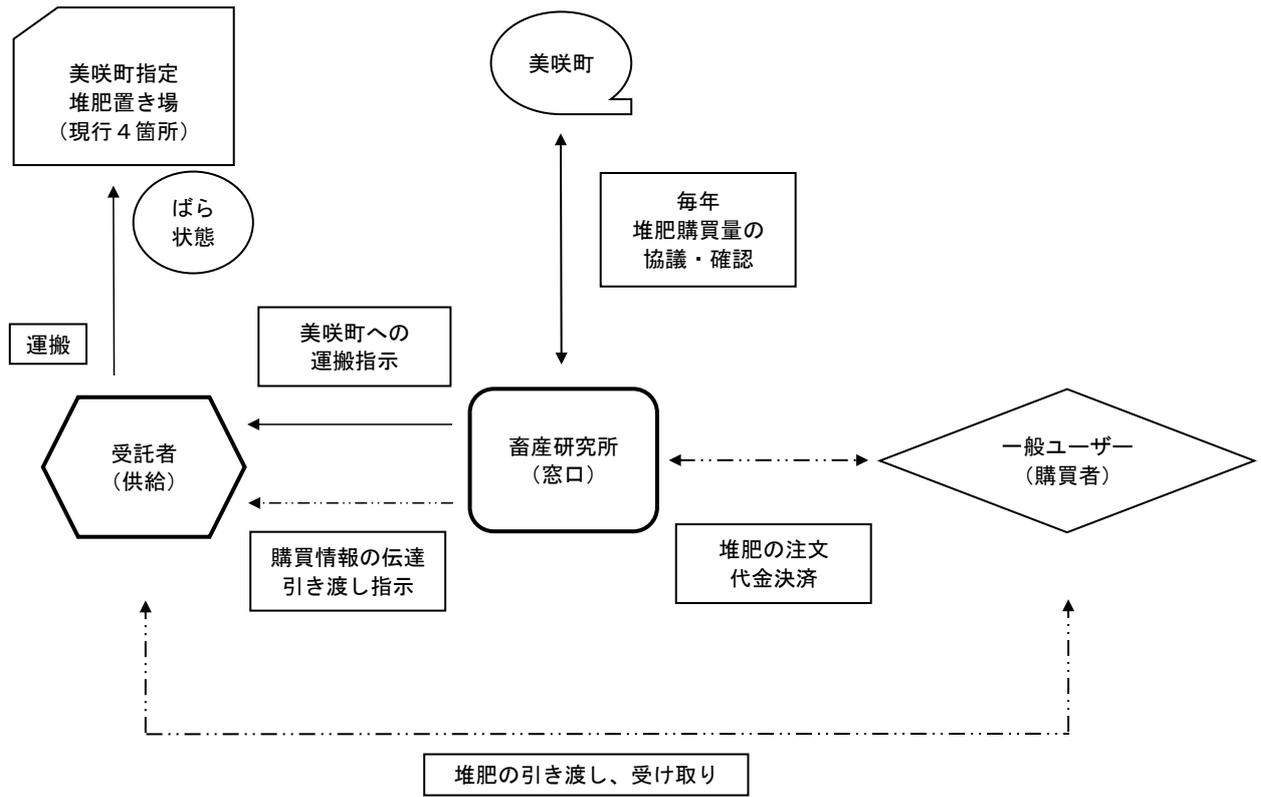
本館窓口にて購買者の受付終了後、研究所から連絡する。なお、購買者が堆肥舎へ直接赴いた場合は、本館窓口で先に受付する旨を購買者に伝達すること。

3 堆肥の出荷・販売記録簿

研究所の指示により堆肥を譲渡した場合には、遅滞なく記録すること（別記様式6）。

※堆肥供給・譲渡の流れ及び旭地区堆肥置き場の位置図を参照のこと。

堆肥供給・譲渡の流れ

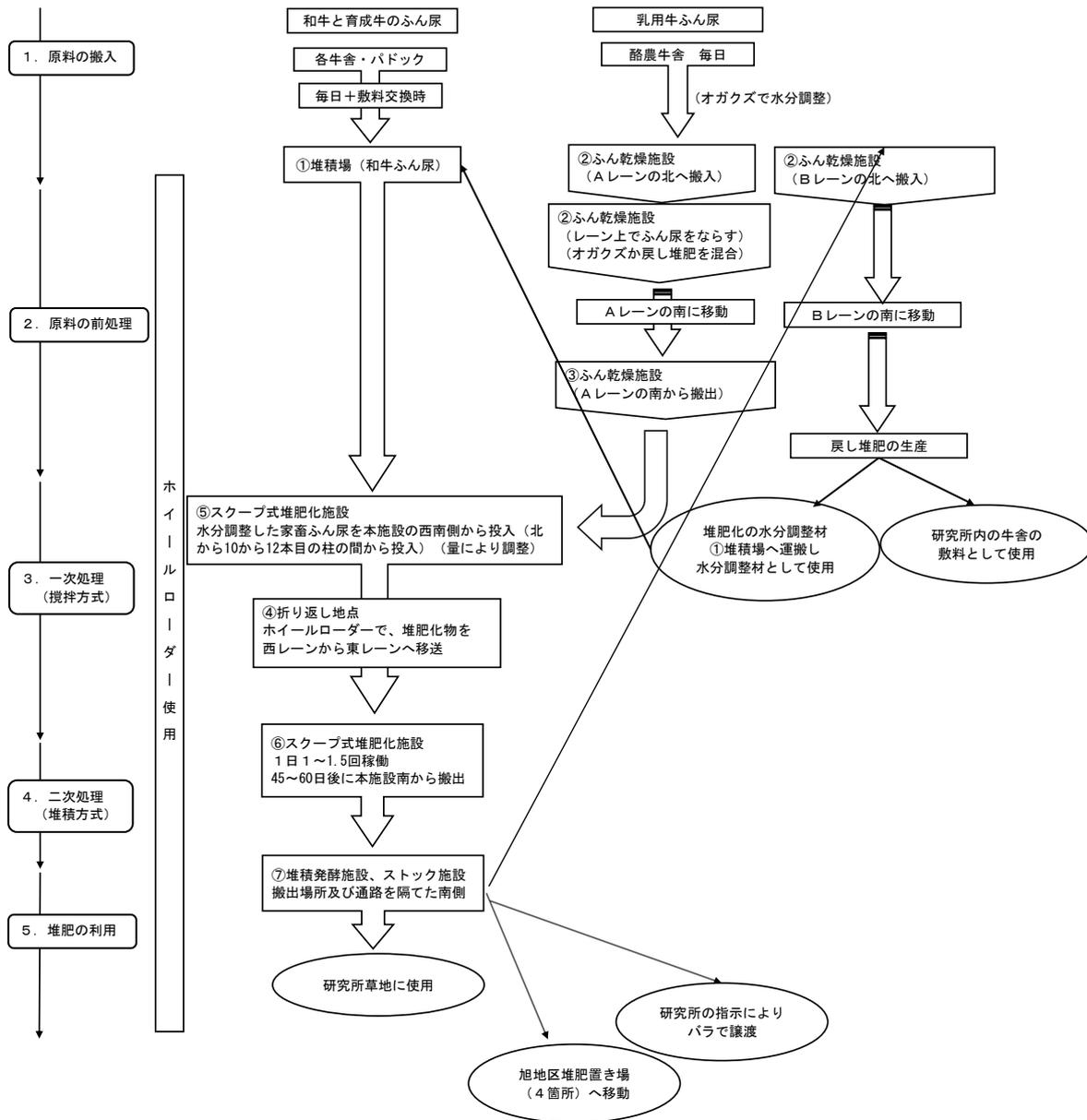


旭地区堆肥置き場 位置図

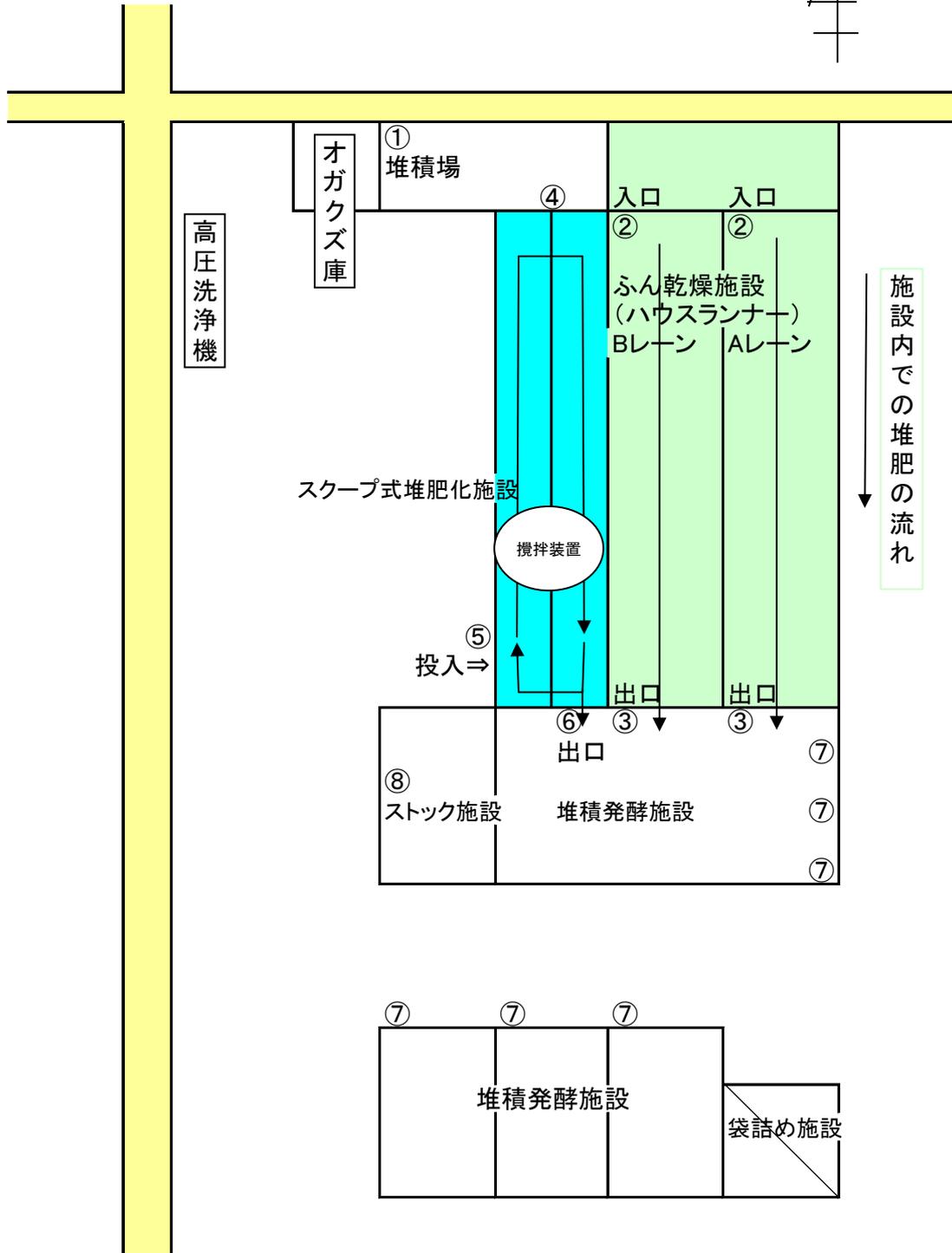
畜産研究所



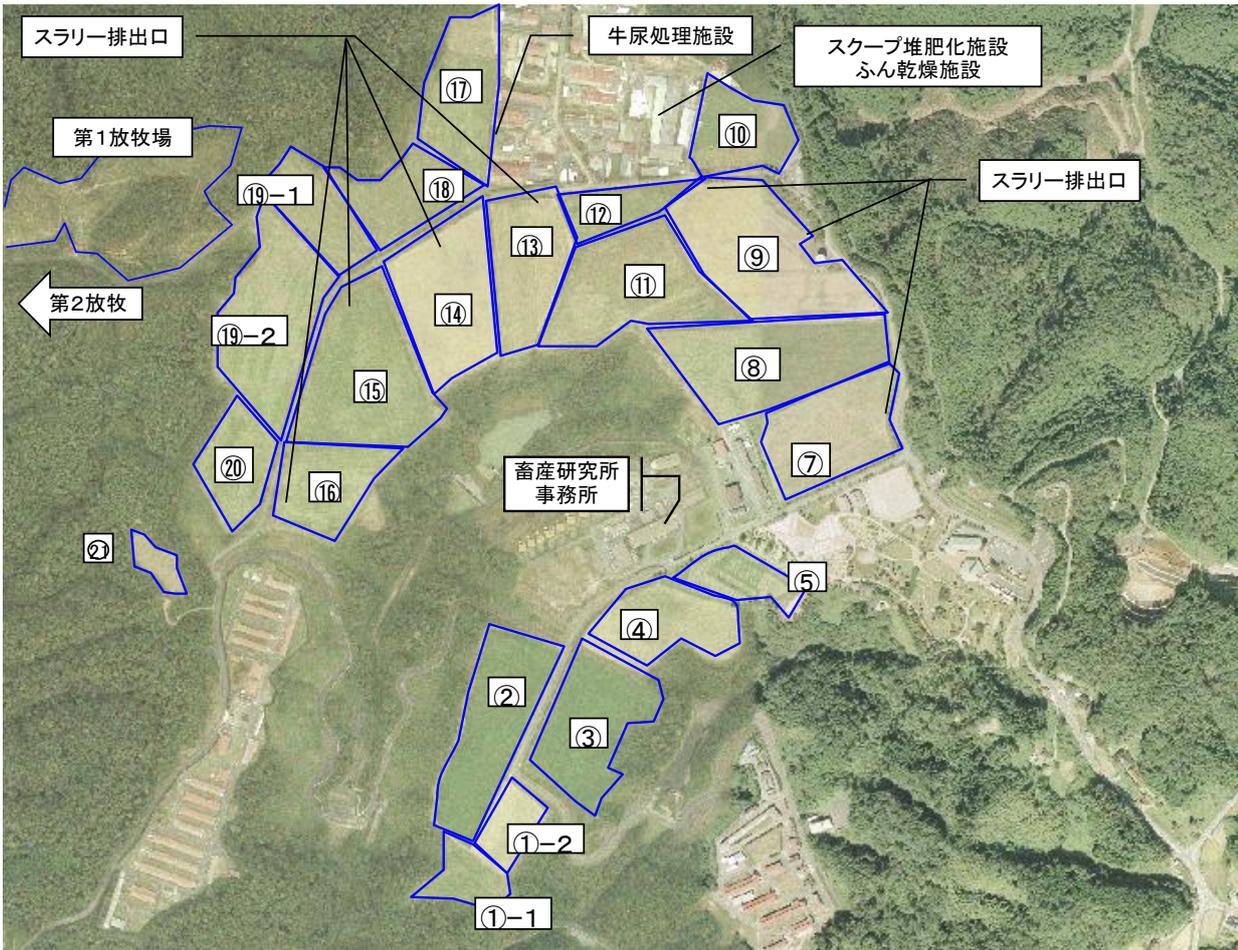
堆肥生産業務の流れ（フローチャート）



堆肥化施設 配置図



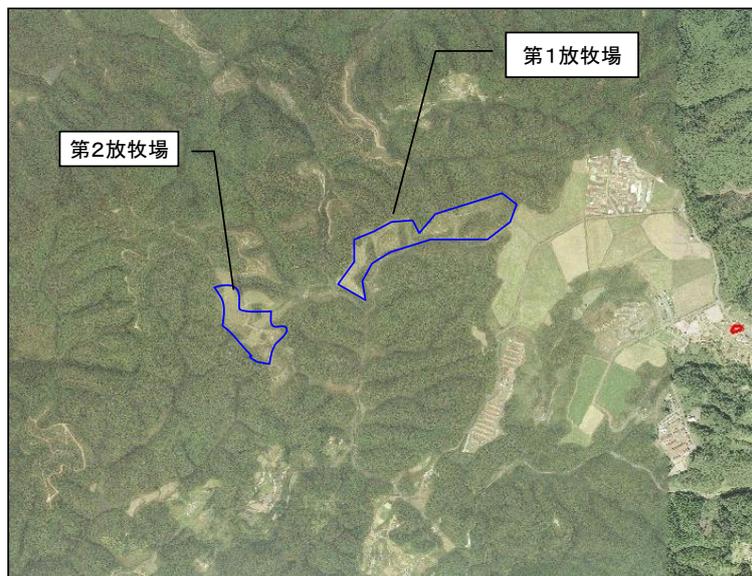
草地管理・堆肥生産管理等業務委託に係る草地及び施設等の配置



業務対象草地等

草地区分	面積(a)
①-1	77
①-2	68
②	228
③	220
④	169
⑦	200
⑧	259
⑨	348
⑪	241
⑫	78
⑬	178
⑭	291
⑮	293
⑯	141
⑱	135
⑲-1	92
⑲-2	283
⑳	111
㉑	33
合計	3,445

第1放牧場	885
第2放牧場	1,151



【参考】

区分	面積(a)	現況
⑤	99	ふれあい放牧
⑩	144	ホル放牧
⑰	175	和牛放牧

別紙2-2

1 令和8年度作付け計画

永年牧草・イタリアン

収穫(a) 7,077

更新(a) 2,359

1番草

ほ場No.	面積(a)
7	200
8	259
9	348
10	
11	241
12	78
13	178
14	
15	293
16	141
17	
18	135
19-1	92
19-2	283
20	111
21	
計	2,359

3番草

ほ場No.	面積(a)
7	200
8	259
9	348
10	
11	241
12	78
13	178
14	
15	293
16	141
17	
18	135
19-1	92
19-2	283
20	111
21	
計	2,359

2番草

ほ場No.	面積(a)
7	200
8	259
9	348
10	
11	241
12	78
13	178
14	
15	293
16	141
17	
18	135
19-1	92
19-2	283
20	111
21	
計	2,359

更新

ほ場No.	面積(a)	備考
7	200	イタリアン
8	259	イタリアン
9	348	イタリアン
10		
11	241	イタリアン
12	78	イタリアン
13	178	イタリアン
14		
15	293	イタリアン
16	141	イタリアン
17		
18	135	イタリアン
19-1	92	イタリアン
19-2	283	イタリアン
20	111	イタリアン
21		
計	2,359	

トウモロコシ

収穫(a) 516

更新(a) 516

ほ場No.	面積(a)
1-2	68
2	228
3	220
計	516

更新

ほ場No.	面積(a)	備考
1-2	68	トウモロコシ
2	228	トウモロコシ
3	220	トウモロコシ
計	516	

2 作業スケジュール (月別)

No.	実面積(a)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
1-1	77													耕作休止
1-2	68	トウモロコシ ◎△◆	-----	-----	-----	-----								
2	228	トウモロコシ ◎△◆	-----	-----	-----	-----								
3	220	トウモロコシ ◎△◆	-----	-----	-----	-----								
4	169	景観作物 ◆	-----	開花										排水不良のため景観作物播種予定 R5に防護柵設置、秋播種は要検討
5	99	景観作物												まきば管理事務所で管理
7	200	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
8	259	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
9	348	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
10	144	放牧利用			掃除刈	追肥		掃除刈						リードカナリー主体
11	241	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
12	78	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
13	178	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
14	291													耕作休止
15	293	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
16	141	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
17	175	放牧利用			掃除刈	追肥		掃除刈						
18	135	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
19-1	92	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
19-2	283	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
20	111	イタリアン -----		-----		-----		イタリアン ◎△◆	-----	-----	-----	-----	△	
21	33													耕作休止
	3,830	33												

凡例 ◆耕起播種 -----栽培期間 △施肥 //刈取り ◎堆肥投入

3 作業の詳細

(1) 永年牧草・イタリアン

(1番草)

ほ場No.	面積(a)	時期
1-2		収穫時期 5月上中旬～6月上旬
2		
3		
4		
5		
7	200	
8	259	
9	348	
10		
11	241	
12	78	
13	178	
14		
15	293	
16	141	
17		
18	135	
19-1	92	
19-2	283	
20	111	
計	2,359	

作業内容	作業機械	時期	方法
刈取	モアコンディショナー	5月上中旬～6月上旬	天候等勘案し概ね1ヶ月間
反転	ジャイロテッター	5月上中旬～6月上旬	刈取の翌日から概ね1日2回反転し、2～3日間実施する。天候等によって牧草の水分量が異なるため、回数については協議する。
集草	レーキ	5月上中旬～6月上旬	反転により適正な水分含量50%以下まで乾燥後に集草する。
梱包	ロールベアラー	5月上中旬～6月上旬	ロールの大きさは、120cmで梱包する。
ラッピング	ラッピングマシン	5月上中旬～6月上旬	原則ほ場内で、ラッピングする。ラップは33回転実施する。
積込(圃場)	ショベルローダー	5月上中旬～6月上旬	ほ場の隅に集める。
運搬(牛舎)	トレーラー ベールハンドラー	6月上旬	ほ場の隅に集めたロールを指定の牛舎に運搬、収納する。

(2番草)

ほ場No.	面積(a)	時期	
1-2		肥料散布 6月中旬 (1番草収穫後)	
2			
3			
4			
5			
7	200		収穫時期 7月中旬～下旬
8	259		
9	348		
10			
11	241		
12	78		
13	178		
14			
15	293		
16	141		
17			
18	135		
19-1	92		
19-2	283		
20	111		
計	2,359		

作業内容	作業機械	時期	方法
肥料散布	ブロードキャスター	6月中旬	1番草収穫後、化学肥料(硫安)を10aあたり30kg均一に施用する。
刈取	モアコンディショナー	7月中旬～下旬	天候等勘案し概ね1ヶ月間
反転	ジャイロテッター	7月中旬～下旬	刈取の翌日から概ね1日2回反転し、2～3日間実施する。天候等によって牧草の水分量が異なるため、回数については協議する。
集草	レーキ	7月中旬～下旬	反転により適正な水分含量50%以下まで乾燥後に集草する。
梱包	ロールベアラー	7月中旬～下旬	ロールの大きさは、120cmで梱包する。
ラッピング	ラッピングマシン	7月中旬～下旬	原則ほ場内で、ラッピングする。ラップは33回転実施する。
積込(圃場)	ショベルローダー	7月中旬～下旬	ほ場の隅に集める。
運搬(牛舎)	トレーラー ベールハンドラー	7月下旬	ほ場の隅に集めたロールを指定の牛舎に運搬、収納する。

別紙2-5

3 作業の詳細

(2) トウモロコシ

ほ場No.	面積(a)	時期
1-2	68	収穫時期 9月上・中旬
2	228	
3	220	
計	516	

作業内容	作業機械	時期	方法
除草	ブームスプレイヤ	4月中旬～5月中旬	ゲザノゴールドを10aあたり0.25Lを均一に散布する。
堆肥散布	マニユアスプレッダー ホイールローダー	4月中旬～5月中旬	10aあたり5tを均一に施用する。
耕うん	ローターベーター	4月中旬～5月中旬	ほ場面の長い方向に実施する。
播種	コーンプランター	4月中旬～5月中旬	種子を規定量播種する。あわせて化成肥料(硫酸)を側条施肥する(10aあたり60kg)。
鎮圧	スピードカルチ	4月中旬～5月中旬	縦、横方面の2回行う。
除草	ブームスプレイヤ	5月下旬 6月中旬	3～7葉期にアルファード10aあたり150mlを均一に散布する。 周辺はラウンドアップを10aあたり1000ml均一に散布する。
刈取	コーンハーベスター テッピングワゴン	9月上・中旬	天候等勘案する。
運搬	ダンブ	9月上・中旬	ほ場から梱包場所まで運搬する。
投入	シヨベルローダー	9月上・中旬	ベラー内の残量を確認しながら投入する。
梱包	細断型ロールベアラ	9月上・中旬	ネットで3回転巻きとする。
ラッピング	ラッピングマシン	9月上・中旬	幅50cmのラップで3回巻(6層)とする。
収納	ペールハンドラー	9月上・中旬	指定場所に収納する。

3 作業の詳細

(3) スーダン

ほ場No.	実面積(a)	延べ面積(a)	収穫草	時期
				播種時期 6月上旬～下旬 収穫時期(1番草) 8月上旬～9月上旬 収穫時期(2番草)
計	0			

作業内容	作業機械	時期	方法
堆肥散布	マニユアスプレッダー ホイールローダー	6月上旬	10aあたり5tを均一に施用する。
肥料散布	ブロードキャスター	6月上旬	化成肥料(硫安)を10aあたり60kgを均一に施用する。
耕うん	ローターベーター	6月中旬	圃場面の長い方向に実施する。
播種	グラスシーダ	6月中旬	種子を10aあたり8.0kgを均一に播種する。
鎮圧	スピードカルチ	6月中旬	縦、横方面の2回行う。

1番草	刈取	モアコンディショナー	7月上旬	刈取時期は出穂期とする。
	反転	ジャイロテッター	7月上旬	刈取の翌日から概ね1日2回反転し、2～3日間実施する。天候等によって牧草の水分含量が異なるため、回数については協議する。
	集草	レーキ	7月上旬	集草する山はあまり多くせず、山はできるだけ均一にする。
	切断・集草	フォーレージハーベスター テッピングワゴン	7月上旬	刈取った牧草の水分に注意する。
	運搬	ダンプ	7月上旬	ほ場から梱包場所まで運搬する。
	投入	ショベルローダー	7月上旬	ベラー内の残量を確認しながら投入する。
	梱包	細断型ロールベアラ	7月上旬	ネットで3回転巻きとする。
	ラッピング	ラッピングマシン	7月上旬	ラップは100cmで、22回転(3層)とする。
	移動	ペールハンドラー	7月上旬	指定場所に収納する。
2番草	肥料散布	ブロードキャスター		化学肥料(硫安)を10aあたり30kgを均一に施用する。
	刈取	モアコンディショナー	9月上旬	刈取時期は出穂期とする。
	反転	ジャイロテッター	9月上旬～10月上旬	刈取の翌日から概ね1日2回反転し、2～3日間実施する。天候等によって牧草の水分含量が異なるため、回数については協議する。
	集草	レーキ	9月上旬～10月上旬	集草する山はあまり多くせず、山はできるだけ均一にする。
	梱包	ロールベアラ	9月上旬～10月上旬	ロールの大きさは、120cmで梱包する。
	ラッピング	ラッピングマシン	9月上旬～10月上旬	原則、圃場内で、ラッピングする。 ラップは33回転実施する。
	積込(圃場)	ショベルローダー	9月上旬～10月上旬	ほ場の隅に集める。
運搬(牛舎)	トレーラー ペールハンドラー	10月上旬	ほ場の隅に集めたロールを指定の牛舎に運搬、 収納する。	

作業用機械等①

(別紙3)

貸与する作業用車両一覧

車両名	名称形式等	車種	登録No.	必要免許※
<自動車>				
キャブオーバー	トヨタXZC710-0005543	普通貨物	岡山100せ7857	①
軽ダンプ	三菱EBD-DS16T	軽貨物	岡山480つ9731	
キャブオーバー	三菱DS16T-387982	軽貨物	岡山480て4604	
ダンプ	三菱TKG-FDA40	小型貨物	岡山400と1678	
ダンプ (2tアルミ)	三菱P-FE435ED	普通貨物	岡山11の808	
軽ダンプ	ダイハツEBD-S510P	軽貨物	岡山480て6923	
ダンプ	日野KK-XZU362T	小型貨物	岡山400せ2883	
キャブオーバー	三菱UFG337B	普通貨物	岡山12さ4868	
<作業車両> (和牛繁殖・酪農・草地管理業務)				
バックホー	日立ZX35U	小型特殊	非登録	①⑥⑦
ショベルローダー	三菱WS500	大型特殊	岡山00ひ14-64	②⑦
ホイールローダー	コマツWA20-2E(G)	小型特殊	美咲町と317	①⑥
ホイールローダー	コマツWA201	小型特殊	美咲町と375	
ホイールローダー	コマツWA30-6NH1	小型特殊	美咲町と831	
フォークリフト	トヨタ02-7FD20	小型特殊	美咲町と368	①⑤
フォークリフト	コマツFD20LC-14	小型特殊	美咲町と315	
フォークリフト	トヨタ7FD25	小型特殊	美咲町と1076	
フォークリフト	トヨタ6FG20	小型特殊	美咲町と1077	
フォークリフト	コマツFD25H-11	新小型特殊	美咲町と1080	②⑤
トラクター	Kubota GL530	小型特殊	美咲町と803	①④
トラクター	マッセイファーガソンMF3090-4	新小型特殊	岡山99ひ20-51	②又は③、④
トラクター	マッセイファーガソンMF174-4	新小型特殊	美咲町と377	
トラクター	マッセイファーガソンMF135(240)	新小型特殊	美咲町と311	
トラクター	マッセイファーガソンMF5465-4C	新小型特殊	美咲町と627	
トラクター	マッセイファーガソンMF6465-4C	新小型特殊	美咲町と1051	
トラクター	マッセイファーガソンMF5711SLESD4	新小型特殊	美咲町と1273	
(堆肥管理業務)				
ホイールローダー	三菱WS210-3	小型特殊	美咲町と373	①⑥
ホイールローダー	古河FL303	新小型特殊	美咲町と376	
ショベルローダー	コマツWR12-8	大型特殊	非登録	②⑦
(和牛肥育業務)				
ダンプ	(トップカー)	小型特殊	非登録	①
ローダー	トヨタ28DK6	小型特殊	美咲町と372	①⑥
フォークリフト	三菱FG10T	小型特殊	美咲町と316	①⑤
フォークリフト	TCMFD20Z-2S	小型特殊	美咲町と1078	

○貸与物件であっても、業務に必要な場合は、畜産研究所が使用することを妨げないものとする。

※ (免許の種類)

- ①普通免許 (小型特殊)
- ②大型特殊免許
- ③大型特殊免許 (農耕車限定)
- ④けん引免許
- ⑤フォークリフト運転技能講習修了
- ⑥小型車両系建設機械 (整地等3t未満) 特別教育修了
- ⑦車両系建設機械 (整地等3t以上) 運転技能講習修了

作業用機械等②

(別紙3)

農作業用機械一覧 (主なもの)

機械名	用途	台数
ハロー	砕土・均平・鎮圧	1
ローターベーター	耕うん	3
ライムソア	施肥	1
ブロードキャスター	肥料・種子散布	1
コーンプランター	トウモロコシ播種	1
ケンブリッジローラー	均平・鎮圧	1
スピードカルチ	土壌深耕	1
モアコンディショナー	牧草刈取り	2
ジャイロテッター	牧草攪拌	1
ディスクハロー	耕うん	1
フォーレージハーベスター	牧草収穫	1
ロールベラー	牧草梱包	1
細断型ロールベラー	牧草等梱包	1
コーンハーベスター	トウモロコシ収穫	1
ブームスプレイヤ	薬剤散布	1
マニユアスプレッダー	堆肥散布	3
バキュームカー	液肥散布	1
レーキ	牧草集草	1
ラッピングマシン	牧草等ビニール梱包	1
プラウ	土壌深耕	1
グラスシーダ	牧草播種	1
テッピングワゴン	牧草等運搬用	1
ベールハンドラー	ロールベール積込用	1
トップカー	敷料等運搬用	4
自走給餌機	飼料給餌用	2

施設付帯設備一覧 (主なもの)

施設名	設備名	施設名	設備名
第1牛舎	扇風機	繁殖牛舎	扇風機
	バンクリーナー		分娩監視カメラ
	分娩監視カメラ	肉用牛舎	扇風機
	ミルカー		監視カメラ
搾乳ロボット牛舎	飼料攪拌機	哺育牛舎 (和牛)	扇風機
	搾乳ロボット		バンクリーナー
	扇風機	後代検定牛舎	搾乳ロボット
	スクレーパー		監視カメラ
哺育牛舎 (乳牛)	搾乳ロボット監視カメラ	肥育牛舎	扇風機
	エサ寄せロボット		自動給餌装置
	育成牛舎	扇風機	農具庫
堆肥舎	バンクリーナー	第2農具庫	
	ふん乾燥施設	スクープ式攪拌機	
汚水処理施設		プロア	
	扇風機		
	ロータリー式攪拌機		
汚水処理施設	タンク		
	曝気装置		
	処理水散布装置		

令和 8 年度 作業日報				確認					
令和 年 月 日 ()	天気:			出勤					

施設		業 務 内 容		
	担当者	通常業務	不定期業務	
	担当者	通常業務	不定期業務	
	担当者	通常業務	不定期業務	
	担当者	通常業務	不定期業務	
	担当者	通常業務	不定期業務	
その他	担当者	通常業務	不定期業務	
特記事項	担当者			

農林水産総合センター畜産研究所長 殿

受託者
団体名
代表者名

収穫計画報告書

粗飼料生産等業務に係る収穫を次のとおり計画しているので、報告します。

記

草地区分	面積(a)	草種 (品種)	収量	推定収量	収穫時期 (月・日)	備考 (品質等)
	①		(kg/m ²) ②	(生草換算kg) ②×①×100		
1-1	77					
1-2	68					
2	228					
3	220					
4	169					
7	200					
8	259					
9	348					
11	241					
12	78					
13	178					
14	291					
15	293					
16	141					
18	135					
19-1	92					
19-2	283					
20	111					
21	33					

農林水産総合センター畜産研究所長 殿

受託者
団体名
代表者名

点検・修理等（記録）報告書

貸付機械等について点検・修理を行ったので、次のとおり報告します。

記

機械名	点検・修理の内容	点検・修理の依頼先	点検・修理に要した経費	点検・修理後の状況	備考

別記様式7

スクープ式堆肥化施設管理簿

①月日	①天気	②気温 (°C)	②湿度 (%)	③サークルコンポ 発酵温度 (°C)					④副資材投入量 (バケツ・杯)	⑤サークル 投入量 (杯)	⑥サークル 稼働量 (周回)	⑦プロアー		⑧仕上り 堆肥量 (杯)	⑨備考
				時刻	柱3	柱5	柱7	柱9				柱11	稼働時間		
				東	:								ON		
				西	:						周		OFF		
				東	:								ON		
				西	:						周		OFF		
				東	:								ON		
				西	:						周		OFF		
				東	:								ON		
				西	:						周		OFF		
				東	:								ON		
				西	:						周		OFF		
				東	:								ON		
				西	:						周		OFF		

※①～⑨の記入方法は、記載要領の①～⑨に示したとおり。

「スクープ式堆肥化施設管理簿」記載要領

スクープ式堆肥化施設の管理運転状況を毎日記録する。（1日1回）

<記載方法>

- ①日付、天候：毎日記録。
- ②気温、湿度：施設内に設置している温湿度計（おんどとり）を確認し、記録する。（毎朝9時頃）
- ③サークルコンボ発酵温度
測定位置は下図のとおりで、柱に記された番号（柱③，⑤，⑦，⑨，⑪）を目印に、東側及び西側レーンの堆肥温度を下図の手順により測定する。

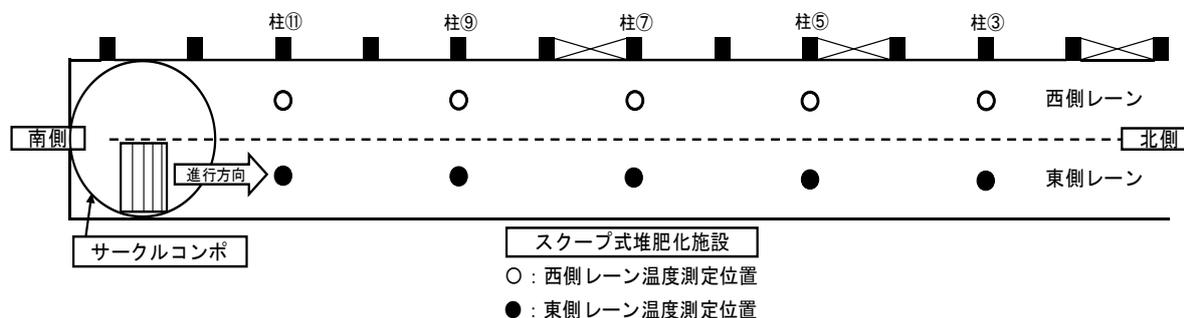
測定手順

（サークルコンボが南側に停止している場合）

- ・朝8時30分頃から、東側レーンに前日から差している温度計（5本）の温度を記録する（記録時刻を記入）。
- ・このレーンをサークルコンボが走行、攪拌するため、温度計をすぐに抜く。
- ・サークルコンボが東側レーンを走行後、北側で回転しているときに、西側レーンの温度を確認、記録する（記録時刻を記入）。
- ・温度記録後、すぐに温度計を抜き、発酵槽の外の安全な場所へ出しておく。
- ・サークルコンボの稼働終了後、温度計を東側レーンに差し込む（サークルコンボを南側で停止させた場合）。サークルコンボを北側で停止させた場合は、温度計を西側レーンに差す。

（サークルコンボが北側に停止している場合）

- ・朝は西側レーンから温度を記録し、東側レーンに温度計を差して上記の逆順に測定する。



④副資材投入

水分調整に使用した副資材（オガクズ、戻し堆肥、その他）の使用量を記入。（ホイールローダーのバケット杯数）

⑤サークル投入量

生ふんと副資材との混合物を発酵槽へ投入した量を記入。（ホイールローダーのバケット杯数）

⑥サークル稼働量

サークルコンボの稼働回数（何周回したか）を記入する。

⑦ブローア稼働時間等

発酵槽ブローアの稼働時間とヒーターのON、OFFを変更した際に記入する。

⑧仕上り堆肥量

スクープ式堆肥化施設南側から搬出した量を記入。（ホイールローダーのバケット杯数）

⑨備考

故障時の特記事項、使用したホイールローダーの車種等を記入。